

---

# 岐阜県立岐阜総合学園高等学校

校長 高橋 幸平

学校住所 岐阜市須賀 2-7-25 電話 058-271-5548

---

1 会議の名称 岐阜県立岐阜総合学園高等学校 評議員会 (第2回)

2 会議の構成 委員 (五十音順)  
奥村 正彦 様 (須賀西地区自治会長)  
神谷 政人 様 ((社)中部地域づくり協議会)  
熊田ますみ 様 (平成医療短期大学教授)  
佐藤 昇子 様 (同窓会副会長)  
森本 浩一 様 (同窓会副会長)

## 学校側

高橋 幸平 (校長)  
横野 令子 (事務部長)  
井関 佳代 (教頭)  
林 美知尾 (教頭)  
岡田 心一 (教務主任)  
横井 直 (進路指導部)  
渡邊 誠 (生徒指導部長)

3 会議の目的 学校運営について、地域の人々から幅広く意見を求め、地域に開かれた、活力ある学校づくりを推進することを目的とする。

4 会議の開催 平成30年2月22日(木) 13:15~15:45  
岐阜総合学園高等学校 校長室  
委員5人と学校側7人が出席

5 会議の概要  
(1) ライフプラン発表会(1年次生)見学  
(2) 開会、校長挨拶  
(3) 各分掌より今年度の取組と反省  
(4) 全体会議  
ア、各分掌への質疑応答  
イ、学校への要望やご意見  
(5) 閉会、校長謝辞

## 6 会議の内容・提言等

[校長、挨拶]

すでにライフプランの発表会で本校生徒のいろいろな話を聞いていただきました。また、KAKEHASHIプロジェクトで訪日団をお迎えした会にも参加していただき、本校生徒の成長している姿を見ていただくことができました。今日は、各分掌より「今年度の取組と反省」を聞いていただきまして、本校が発展するようなご意見をいただきたいと思います。よろしくお願い致します。

[各分掌より今年度の取組と反省]

- (1) 教 務 充実した授業をめざして、職員研修や生徒による授業評価及び家庭学習調査を実施した。日頃の家庭学習習慣をつけるために、各教科でどのような学力を身に付けさせたいかを明確にした上で、日頃に課題を出しそれが考査及びその後の評価に繋がるようにしていきたい。
- (2) 進路指導 今年度は就職希望者が多かった。経済的理由で進学を諦めた生徒が、ビジョンをもたないまま就職を希望するケースが目立った。特に、進学系列の就職者については、離職・転職の動向に注意を払う必要がある。また、大学入試共通テスト

受験対象になると同時に、大学短大入試は推薦・AO入試も学力検査や思考力を問う総合問題型小論文、表現力を問うプレゼンテーションなどが課せられるため学校全体でカリキュラムを含めた制度設計の更新が必要となる。

- (3) 生徒指導 新規取組「0の日キャンペーン」は、生徒会長が中心となり、生徒会役員が校門で呼びかけている。前日には、生徒会長から昼休みに全校放送で呼びかけをしている。月に3回ではあるが、生徒会はとても協力的に進めてくれている。遅刻欠席については減少傾向である。

[全体会議]

委員A： 1年生はライフプランの設計で、先のことまでよく考えている。また、3年生は自分のライフプランの実現に向けて取り組んでいるが、昨年度も言ったが、2年生をどうするのか。2年生になった時にどうなのかという振り返りを充実させるような取組をお願いしたい。

就職した後、迷ったときに気楽に相談できるような体制づくりをしてほしい。

委員B： 普段の勉強時間の少ないことが課題であるという反省に対して、部活動が盛んである学校として、普段の活動の中に勉強会のようなことを取り入れてはどうだろうか。学習の習慣づけにもなるのではないか。また、大学入試の共通テストに向けても早期に対策を立てていただきたい。生徒指導関係で、問題行動を起こした生徒の数は少ないようであるが、気を抜かず今一度岐阜総合らしい指導をお願いします。

委員C： 教務部の話の中にあつた広報活動について、総合学園となって20年以上も過ぎているのにまだまだ必要なのか。

職員： 総合学科とはどういうものなのかということを知りたいものが多い。まして中学校では、まだまだ理解されておらず、入学した生徒に「中学校の先生にどういうふうにいるのか」と尋ねてみると「単位制であることと、授業を選ぶことができる」ということしか聞いていないのが現状である。

委員E： 学校説明のDVDにライフプランの発表内容はあるのか。あつた方が学校のことが理解しやすいと思う。また、卒業生からのアピールがあるとよりよいのではないか。

職員： 時間の関係で内容までは入れていなかったが、ぜひ検討していきたいと思つます。

委員C： ライフプランの発表会を聞いて、それぞれの生徒がしっかりと考えて取り組んでいることを知り感動しました。取組については、授業評価を昨年度から行われたということですが、内容について良いという評価が増えていることは、授業等が工夫されていることの表れだと思つます。授業規律等もしっかりされているという評価が出ていることもよいと思つます。

進路指導については、入試対策としてのグループディスカッションは、功を奏したということであるがとても良かった。今後の共通テストに向けても、自分の意見を発表するという機会をより多く授業に取り入れ、アクティブラーニングの形式で授業を進められるとよいと思つます。

委員D： ライフプランの発表会とKAKEHASHIプロジェクトで訪日団をお迎えした会にも参加させていただき、とても盛りだくさんで楽しい時間を過ごさせていただきました。3分掌がしっかりと連携されており安心した。また、今日の様子で教員がしっかりと生徒に関わっていることが分かつた。部活動でも素晴らしい活躍をしている。

委員E： 製造業の立場から言うと製品である生徒をいかに良いものとして送り出していくことのアピールは必要であると思つます。

進路指導について、就職率の増加については、求人倍率の増加が原因となっているのではないか。または、家庭事情によるものが背景にあるのではないか。就職先から生徒の評価をいただいているか。

職員： 求人票を持参されたときや採用試験後にお話を聞かせていただいたときには、よくやっているという評価をいただいている。離職率も少なく長く続いている。

[校長、謝辞]

評議員の皆さまが、本校を愛していらっしゃる関わっていただけることは、大変ありがたく思つております。さらに本校の生徒たちを良くするように進めてまいりますので、ご指導よろしくお願ひいたします。